

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜北高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月9日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜北高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会 長	村瀬 忍	岐阜大学教授
副会長	若山 桂子	PTA会長
委 員	澤井 隆彰	人材育成コンサルタント
	高橋 進	則武自治会連合会顧問
	西川 光美	令和3年度PTA会長
	古田菜穂子	同窓会代表(北斗会顧問)
	山下 真史	岐阜青年会議所専務理事
学 校 側		
	鈴木 健	校長
	土田 修三	教頭
	日下部 光	教頭
	中川 牧子	事務部長
	西野 公司	教務主任
	坪内有美子	進路指導部長
	小俣 太志	生徒指導部長代理
	小枝 千穂	特別活動部長
	高橋 淳	保健厚生部長
	山田 知史	図書部長
	河合 恵哉	総務渉外部長
	山田 雄太	カリキュラムデザイン部長(欠席)
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 授業参観について
 - ・1年次「情報Ⅰ」の実習を見学
 - 意見1: 情報Ⅰの授業はプログラミングの内容で教材のドローンを活用した実習であったが、今年2月に同窓会から寄付されたものであると伺っている。すぐに授業で活用できる学校側のスピード感が素晴らしい。
 - 意見2: ドローンの操作から、生徒がトライ&エラーを繰り返していたが、こうした体験は社会に出てから役立つと考えている。

(2) 令和5年度教育指導の重点及び学校経営計画の中間報告について

- ・第1回学校運営協議会で示した学校経営計画について、生徒・保護者アンケートも踏まえて、各分掌から、その進捗状況について報告を行った。
- 意見1：探究学習の必要性について、今年度は生徒が探究の意義を理解し積極的に楽しく学習しているという印象を受ける。教職員の指導により生徒の学びへの意識が高まっている。
- 意見2：生徒・保護者アンケートの結果はA（よくあてはまる）が多く全体的によい。日頃の教職員の努力の成果であると思う。このアンケートは記名式なのか。また、ケアする必要がある内容があった場合、どう対応していくのかが気になる。
⇒無記名式である。全体の傾向を把握するものであり、個別生徒への支援は別のアンケート調査により対応している。
- 意見3：生徒・保護者アンケートの回収率はどれくらいか。結果のD（まったくあてはまらない）という項目に注目する必要がある。また、Eはわからないということなので、より学校のことを知ってもらうとよい。
⇒回収率は、生徒が35%、保護者は50%である。今後も、Classi やHPなどを通じて情報発信をしていきたい。
- 意見4：生徒・保護者アンケートについて気になる項目が2点あった。一つ目は学習指導の「テストの得点だけではなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」という項目でテストの得点以外でどのように評価するのか、二つ目はいじめや差別を許さず厳しく対応しているという項目に保護者の40%がE（わからない）を付けているところ。対応しているのかもしれないが、設問の仕方にも問題があるのかもしれない。
⇒学習の評価については、大部分を中間や期末考査の得点で付けている点に改善の余地がある。また、いじめ等については、その内容から本校が行った指導について発信することが難しいので、保護者には分からない部分があるかもしれない。いじめに関する生徒アンケートでは毎回ほぼゼロである。何かあつたらすぐに対応する基本方針は本校のHPなどに掲載してあるが、もっと何らかの形で発信できるよう工夫していきたい。
- 意見5：生徒・保護者アンケートの働き方改革についての質問項目ではE（わからない）と回答している保護者が多い。きっと本校の教職員は日々熱心に働いているのだと思う。働き方改革の視点からも教職員には本当に体に気を付けてほしい。
- 意見6：今の学生はコロナ禍を経験しているせいか積極性に欠けたり人と関われない人が多いように思う。オンライン配信やオンデマンド配信という便利な環境を経験しているので、色々なことを実体験するという気持ちが薄れているように感じる。コロナ後の今は、元（コロナ前）には戻れないので、良い所だけ残して新しい方法に変えていくという時期に来ている。
- 意見7：本校の生徒には多様な経験を積んでもらいたい。そのための外部との連携、職員の引率、費用など、何が必要なかを遠慮なく相談してほしい。手伝えることは色々あると思う。来年度は国民文化祭など全国の方が交流する機会があるので、活用してほしい。
- 意見8：進路指導について生徒の目標についてどのように指導しているのか。
⇒何点だからこの大学というような指導ではなく、1年次から探究学習などを実施し興味や関心に基づいた進路選択ができるように指導している。
- 意見9：クラスによって同じ科目の授業でも生徒の理解度に差があると聞いたことがある。授業の後に生徒から理解度を教職員に気軽に伝えるような環境があるとよい。
⇒生徒による授業評価は重要であり、教職員の授業力の向上に還元できるよう工

夫していきたい。

意見 10：部活動は本校の教育活動においてどのような位置づけになっているのか。

⇒部活動は教育課程に位置付けられていない課外活動であるが、重要な教育活動のひとつであると認識している。従って、生徒が主体的に活動していることには引き続き支援していきたい。今年度は、鹿児島や北海道への全国大会があり年度当初の予算を超過したが、本校のPTAに協力を願い支援を継続している。

意見 11：教育相談の生徒対応についてどのようにしているのか。

⇒本校の教育相談係は生徒指導部内に組織されており、教職員だけでなくスクールカウンセラーとも連携し対応できる体制をとっている。生徒の相談内容は多岐に渡り、休み時間などに教育相談室を利用し元気をチャージしてすぐに授業に戻る事案もあれば、岐阜県のGプレイスなどを長期に利用する事案もある。

意見 12：学校と地域の開かれた関係・連携が大切である。学校公開日の案内をいただき地域に回覧したところ反響が大きかった。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会において、出席した全委員より今年度の教育活動の進捗状況について理解が得られた。
- ・本校に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。今後の学校経営に生かしていく予定である。
- ・第3回学校運営協議会では、本年度の本校教育活動について評価をいただく予定である。